

助動詞“愿意”“想”の特性について ——程度副詞との共起を通して——

石井 友美*

1. はじめに

本稿は現代中国語における意志表現“愿意”と“想”の特性の違いを程度副詞との共起から明らかにするものである。“愿意”と“想”は主体の意志を表し、多くの場面で日本語の「～たい」と訳される点で共通した特性を持つと言える。しかし以下の例のように副詞と共起した場合に異なった様相を見せる。

- (1) a. 我今天非常高兴，我太想得到这块金牌，我准备了很长时间，终于成功了。（北大）
[今日はとても嬉しい。この金塊をすごく手に入れたくて、私は長い時間準備をしていた。やっと今日成功した。]
- b. ? 我今天非常高兴，我太愿意得到这块金牌，我准备了很长时间，终于成功了。
- (2) a. 啊，我思念你，好想见她!（北大）
[ああ、私は貴女を想い、彼女にとっても会いたい。]
- b. * 啊，我思念你，好愿意见她!

* いいしい・ともみ 早稲田大学教育学部助教

上記からわかるように“想”は程度副詞“太”と“好”に問題なく共起することが可能であるが、“愿意”に至っては(1) bのように不自然であったり、(2) bのように非文となる。また上記のような置き換え以外においても程度副詞“太”と“好”の共起状況は“愿意”と“想”で異なることがわかる。北京大学のコーパス、“北京大学中国语言学研究中心现代汉语语料库检索系统”(CCL 语料库)において“太”+“愿意”の例は3例しか見つからなかったのに対して、“太”+“想”は95例が見つかった。さらに程度副詞の“好”が“想”を修飾する例は71例見つかったが、“好”が“愿意”を修飾する例は1例しか見つけることができなかった。つまり“太”と“好”は“想”と共起しやすく、“愿意”とは共起が難しいということである。しかし“愿意”はすべての程度副詞と共起状況において問題を持つわけではない。

(3) a. 拿我自己来说, 我很愿意向高贵的人学习呢。(北大)

[私から言わせると、高貴な人から学びをととても得たいんだ。]

b. 我非常愿意为中国人民的进程做些事情, 这真的是中国知识分子应该做的事情。(北大)

[私は非常に中国の人民の発展のためにこれらのことをしたい。これが本当に中国の知識階級が行うべきことなんだ。]

c. 尊敬的父王, 回顾往昔, 我真愿意身遭惨死, 我离开了家乡、女儿和朋友, 跟着你的儿子来到这里。(北大)

[尊敬する父王よ、昔を思うと私は本当に死んでしまいたい。私は故郷、娘や友達と離れ、あなたの息子に付き添いここにやって来た。]

d. 我们学校的学生都是住宿舍, 回家的时候大家都挺愿意上网,

聊聊天什么的，大部分人还是跟自己班的人聊。（北大）

〔私たちの学校の学生は皆寮に住んでいて、家に帰るとみんなインターネットをやったり、おしゃべりしたり、大部分の人がやはり同じクラスの人とおしゃべりをします。〕

e. 我们以前怕上语文课，现在我们最愿意上这门课了。（北大）

〔私たちは以前、国語のクラスに出るのが怖かったのですが、今は私たちは最もこのクラスを好むようになった。〕

上記では程度副詞“很”、“非常”、“真”、“挺”、“最”が用いられており、“愿意”と問題なく共起することができる。本稿では以上のような共起状況の違いを“愿意”と“想”の持つ意志表現としての特性を絡めて探っていきたい。

2. 意志表現における「願望」「抱負」「意向」

本章では宮崎（2006）が指摘する日本語の「～タイ」に見られる「願望」「抱負」「意向」という概念を挙げ、“愿意”と“想”の先行研究で指摘された特性とこれらの概念がどのように関係しているのか見ていく。

2.1 宮崎（2006）

宮崎（2006）では「～タイ」が持つ意味をまず始めに「欲求」と指摘している。「欲求」とは人間が現実働きかけ、それを作り変えていくときの原動力となる、動作の実現に対する話し手の欲望や意欲のことである。宮崎氏はこの「欲求」は文の対象的な内容との関係によってさらに分化されると指摘している。分化された意味とは次のようなものである。

- (4) 「今夜は勝てそうですか？」
「それはわからない。」
内藤は口ごもった。
「……でも、勝ちたい。勝たなければ、と思っているんです。昔みたいに、どうでもいいじゃなくて、もう一度やり直そうとしたんだから、勝ちたい。でもね、そればっか意識するつもりはないんだ。そうすると自分というものを出せないかもしれないからね。ただ……勝負ってのをやってみたいと思っているんです。」(宮崎 2006)
- (5) 私は今、生きている。私にはいろいろな矛盾と混沌がある。私は何故たまたかったのか。そして何故たまたかうのか。それを探るために祖父のことから父母、学校、戦後史をやってみたい。これから図書館（立命）に行って、「戦後史」を読もうと思う。(宮崎 2006)
- (6) ディエドには、本来の任務を思いだしたトルコ艦隊が、海上で待つ自分たちの船に、襲いかかってくる危険を忘れることは許されなかった。今なら、強い北北東からの風が吹いている。だが、この風も、いつ変わるかわからない。彼は、この風があるうち最終的な脱出の決断を下さなければならなかった。それをジェノヴァ船に告げると、ジェノヴァの船乗りたちはこう答えてきた。「自分たちの船は大型帆船だから、風に恵まれさえすれば船足はずっと早い。だから、まだしばらくは待ってみる。せめて、陽の落ちる頃までは待ってみたい。」(宮崎 2006)

上記の例はいずれも「欲求」が根底となり、文脈や文の内容、対象動作

によって意味が分化している。上記（4）では「～タイ」の対象動作の「勝つ」は話し手にとって意志を実現することができない無意志動詞である。このように「欲求」となる文の対象が話し手にとって実行に移すことが不可能な場合、「欲求」は話し手がただ願うだけの「願望」として意味を持つことになる。また（5）においては「やってみたい」は話し手が実際にこれから行おうと考えていることであり、対象動作の「やる」は話し手にとって目標であり、達成のために主体的に行動する意志を表明している。このような場合、「欲求」は話し手の「抱負」となる。（6）では話し合いの中で判断を求められた話し手が決断を相手に伝える文脈で用いられたものである。また文脈から「対象動作」の「待つ」というのは話し手にとって実行可能であることがわかる。このような文脈において「欲求」は話し手が動作を実行可能と判断し、その判断を相手に伝える「意向」となる。尚、（6）のような「～タイ」は話し手の意志実行への決意が強い「シヨウ」に書き換えることが可能である。以上から「～タイ」は根底に意志の原動力となる「欲求」があり、意志の対象や文脈により「願望」「抱負」「意向」と意味が分化されるということがわかる。つまり「～タイ」は「欲求」を話し手の内部に留めておき、未だ動作への実行を行っていない「願望」と「欲求」を話し手の中で実行することを決定する「抱負」、さらには決定し、外部に働きかける「意向」が存在するということである。次節では中国語の“愿意”と“想”は「～タイ」に見られるような「欲求」が分化した意味が存在するのか、先行研究で指摘された各々の特徴から探っていきたい。

2.2 先行研究における“愿意”と“想”

本節は“愿意”と“想”の先行研究について見ていく。“愿意”と“想”は同じく意志を表す助動詞であるため、先行研究において両者を比較し、性質の違いを指摘するものがいくつか存在する。魯晓琨(1999)は“愿意”

の性質を“回应选择性”と指摘している。“回应选择性”とは話し手が文脈から自身の意志を選択することである。

(7) * 你愿意去中国吗? (鲁晓琨 1999)

(8) 公司派你去中国, 你愿意去吗? (鲁晓琨 1999)

[会社があなたを中国に派遣するなら、あなたは行きたいですか?]

“愿意”は話し手が文脈から意志を選択する“回应选择性”の性質を持つため上記の(7)のように文脈がなく、また選択肢が存在しない唐突に尋ねられた疑問文には用いることはできない。しかし(8)のような文脈を持った場合、用いることができる。それは前文で“公司派你去中国”という文脈が存在し、そこに“去”と“不去”という選択肢を提示しているためである。また史形嵐(2015)も“愿意”について“意愿上的选择”と指摘している。以上からわかるように“愿意”というのは文脈や話し手の想定から一つの意志を選択する性質を持つものである。石井(2016)は益岡(2002)と孫樹喬(2014)が指摘する「定意志」「未定意志」の概念を用いて“愿意”と“想”の違いを指摘した。まず「定意志」「不定意志」「未定意志」の概念から説明していきたい。「定意志」とは話し手が意志を確定させた表現のことであり、以下のように話し手の意志が定まった表現である。

(9) 「いや帰る」厚夫は立った。「待って、私も帰る」和香子が追ってきた。(益岡 2002)

上記の「帰る」は話し手が意志を断定させていることから話し手が意志

を確定させている「定意志」であるということがわかる。次に「不定意志」の例を見ていきたい。

(10) 医者が駄目だって言うなら、それにさからってやろうかって僕は思ったんです。（益岡 2002）

(11) アルバイトでもやりながらゆっくり探るか。（益岡 2002）

益岡（2002）は「不定意志」を真偽の判断が下せない「不定判断」の表現の一つとしている。上記の例の下線部はいずれも疑問助詞「か」が用いられていることから、話し手の意志が確定されていない状態にあることがわかる。つまり上記の例の下線部は「不定意志」にあたる。孫樹喬（2014）はこの「定意志」と「不定意志」の間に「未定意志」という概念を設けた。「未定意志」とは「定意志」のように意志は断定されておらず、また「不定意志」ほど意志が不確かな表現、つまり疑問助詞などを用いた不定の形式ではないものことである。つまり益岡（2002）の「定意志」「不定意志」、孫樹喬（2014）の「未定意志」は「不定意志」「未定意志」「定意志」の順番で話し手の意志の確定度が高くなる、つまり段階性を持つということである。石井（2016）は以上の「定意志」「未定意志」の概念を用いて“愿意”と“想”の違いを指摘した。“想”は孫樹喬（2014）が指摘するように「未定意志」の性質を持つ。以下の例を参照されたい。

(12) 只不过在看到同样身为女孩子家的圆圆情况下，自然而然的也想受人赞赏。

〔同じ女の子の圆圆的状況を見て、自然と（自分も）賞賛を受けたいと思っただけである。〕（石井 2016）

(13) 我想去外国留学，可是我不敢。

[私は外国に留学したいけど、する勇気がない。] (石井 2016)

上記の例はいずれも「未定意志」の性質を持つ“想”に適した文脈である。(12)は“想”の対象動作として“受人赞赏”を用いてる。“受人赞赏”は主体が制御できる動作ではない。このような動作であっても“想”は主体が意志を未定のまま保留させる性質を持つため、用いることができる。また(13)は前文において“想”を用いて意志を表しているが、後文においてそれを覆している。“想”は「未定意志」の性質を持つため、このような主体が意志を途中で変更させる文脈に用いても何ら問題は生じない。以上からわかるように“想”は主体の意志を定めず、未定のまま保留している「未定意志」の性質を持つ。石井(2016)は以上のような“想”の性質を“愿意”と対比すると、“愿意”は以下の例にあるように主体が制御できない対象動作が用いられた文脈や意志を途中で覆す文脈には用いることができないと指摘した。

(14) # 只不过在看到同样身为女孩子家的圆圆情况下，自然而然的也愿意受人赞赏。(石井 2016)

(15) * 我愿意去外国留学，可是我不敢。(石井 2016)

石井(2016)は上記で見られるような“愿意”が「未定意志」の性質には近づくことができないうことと前述した魯晓琨(1999)、史彤嵐(2015)が指摘した“愿意”が主体の意志選択を表すという性質から“愿意”は主体の意志選択に重点を置いた「選択意志」の性質を持つと指摘した。

2.3 “愿意”と“想”の性質における「願望」「抱負」「意向」

本節では前節で説明した先行研究における“想”と“愿意”の特徴、つまり“想”の「未定意志」と“愿意”の「選択意志」が宮崎（2006）が指摘する「願望」「抱負」「意向」の概念にあてはめるとどのような様相を表すのか見ていきたい。

2.3.1 「願望」

宮崎（2006）が指摘する「願望」の定義は前述したように話し手がある動作や状態をただ願うだけで、その動作や状態の実現へ決意や決定をしていないものことである。日本語においては「～たい」がこの意味を持ち、「願望」を表す「～たい」はその対象動作が話し手がコントロールできないものであった。中国語においては“想”が「願望」として機能することができる。以下の例を参照されたい。

- (16) 现在巴西队的选手都在联赛中期，而中国队的选手则在比赛准备期（中国的联赛还没开始）。我们几乎所有的球员都在为新赛季做准备，但面对巴西队，中国队也想取得胜利。（北大）

〔現在、ブラジルチームの選手はリーグ戦中であり、中国チームは試合準備中である。（中国のリーグ戦はまだ始まっていない。）私たちはほとんどすべての選手はみんな新しい試合期間のために準備しているが、ブラジルチームに対しては中国チームも勝ちたいと思っている。〕

- (17) 那天晚上就有他的课。迫切想考上大学的我高兴死了。当天晚上我饭都没有吃，就赶去上石老师的课。（北大）

〔その日の夜は私は授業があった。はやく大学に合格にしたかった私も死ぬほどうれしかった。その日の夜、私は食事は取らず

に、石先生の授業に急いで出た。]

上記の例において“想”の対象動作として“取得”、“考上”が用いられている。これらは主体がコントロールできないものである。これらの動作は他者から評価され、実現可能となる動作である。このような対象動作は話し手が願望の実行を決定することはできなく、そこに用いられた意志表現にも実行の決意は見られない。つまり上記の例において“想”は「願望」を表す表現であると言える。次に“愿意”と「願望」の関係を見ていきたい。

(18) # 现在巴西队的选手都在联赛中期，而中国队的选手则在比赛准备期（中国的联赛还没开始）。我们几乎所有的球员都在为新赛季做准备，但面对巴西队，中国队也愿意取得胜利。

(19) # 那天晚上就有他的课。迫切愿意考上大学的我高兴死了。当天晚上我饭都没有吃，就赶去上石老师的课。

上記の例はいずれも (16) (17) で挙げた例を“愿意”に置き換えたものであり、対象動作は話し手がコントロールできないものである。上記からわかるように“愿意”はこの文脈に適さない。しかし“愿意”は話し手がコントロールできない動作を対象動作として持つことが必ずしも不可能であるというわけではない。

(20) 乃至起身告辞时，考白脱正好接到报告，知道有华尔的兵在，愿意取得联络，请萧家骥居间介绍。（北大）

[ひいてはその場に別れを告げるときに考白脱はちょうど報告を受け取り、ワードの兵が滞在していることを知り、連絡を取

りたく、萧家骥に間に入ってもらい紹介を頼んだ。]

上記の例では“愿意”の対象動詞が“取得”であり、動作自体は主体がコントロールできないものである。しかしこの例における“取得”は（18）とは異なり、“取得联络”を実行に移すことは後文の“请萧家骥居间介绍”からわかるように話し手の中で決定している。（18）における“取得”は前文に“中国的联赛还没开始”があることから、“取得胜利”は話し手が決意を示す状態ではないことがわかる。以上を言い換えると“愿意”は対象動詞に話し手がコントロールできないものが来ても「願望」ではなく、意志の実行への決意が見られる「抱負」や「意向」として機能するということである。

2.3.2 「抱負」

前述した通り、「抱負」の概念は対象動詞が話し手にとって目標であり、話し手が目標達成のため主体的に行動する意志を表しているものことである。

- (21) 我想抽个时间，再到那边临近几个村开开群众座谈会，多找些有经验的老人请教请教。等研究出一个比较有把握的方案再定吧。

（北大）

〔私は時間を取って、またあのあたりのいくつかの村で座談会を開きたい。経験ある老人をたくさん探して、教を請いたい。比較的よく出来た企画書を研究してからそれに決定したい。〕

- (22) 当时我想自学英语，看中了一套英国 Longman 出版社的《基础英语》（Essential English Students, 4 册）这套书还不是“原配”，两册是外文原版，两册是“文革”前国内出的影印版，没得说，

当時決定买下。(北大)

[当時、私は英語を独学したくて、イギリスの出版社 Longman
が出す《基础英语》(Essential English Students,4 冊)を気
に入った。このセットは正式なものではなく、2 冊は外国語の
原本であり、もう 2 冊は文化大革命前に国内で出版された複写
本である。言うまでもないが、当時、買うのを決めた。]

- (23) 叶雷说, 总理与艾滋病握手和交谈向社会发出了一个信号, 告
诉大家艾滋病病毒感染者是需要支持和关爱的, 温总理用他的行
动表明“我愿意帮助他们”。(北大)

[葉雷は言う。首相とエイズ患者が握手し、会話をかわしたの
は社会に向けてある信号を送り、皆にエイズ患者は支援と関心
が必要であり、温首相は自身の行動でそれを表明した。「私は
彼らを助けたいんだ」と。]

上記の例はいずれも話し手の「抱負」を表すものである。(21)(22)は“想”
が用いられ、(23)は“愿意”が用いられている。上記が「抱負」として
意味する根拠として、文脈に主体が対象動作を実行すべく具体的な行動
を行っている記述があることが挙げられる。例えば(21)では“抽个时间”
という対象動作を行うため、後文で“再到那边临近几个村～”などの具体
的な行動が示されている。また(22)も対象動作の“自学英语”を実現す
るため、後文で参考書を買うという行動をしている。さらに(23)にお
いても“温总理用他的行动表明”が用いられていることから、話し手が“帮
助他们”という動作実行への意志を示している。つまり上記はみな話し
手の「抱負」を表していることがわかる。

2.3.3 「意向」

次に「意向」について見ていきたい。「意向」とは話し手が対象動作を
実行可能な状態にあると判断しており、その判断を宣言または聞き手に
伝える意味を持つものである。以下の例を参照されたい。

- (24) “大使先生”，德·维尔巴里西斯夫人说，“我想介绍您认识这位客人。布洛克先生，诺布瓦侯爵。”（北大）

〔大使様、ド・ヴィルパリジ夫人が言った。「あなたに紹介したいお客様がいます。ブロッグ様、こちらノルポア侯爵様です。〕

- (25) 另一方面也说明知识分子在市场经济中逐步找到了知识的价值、知识分子的价值。我想强调，知识分子不是市场经济中的“古董”或“乞丐”。（北大）

〔もう一つの側面でも知識階級が市場経済の中で知識階級が徐々に知識や知識階級の価値を見つけ出していることを説明できる。私は次のことを強調したい。知識階級は市場経済の骨董品でもなければ乞食でもないことを。〕

- (26) 钱其琛在演讲中说：“美国国务卿鲍威尔不久前说中美关系正处于‘最好’时期。我同意这样的评价，但我愿意补充说，中美关系还应当也可以做到‘更好’。”（北大）

〔錢其琛は演説で言った。「アメリカ合衆国国務長官パウエル氏は先日、米中関係は最も良い時期にあると言った。私はこの見方に同意するが、次のことを付け加えたい。米中関係は更に良い状態に持っていくべきであると。〕

- (27) 泰国作为主办方，为会议做了精心准备和周到安排，我对此表示衷心的感谢。下面，我愿意回答各位记者提出的问题。（北大）
〔タイが主催となり、会議のために入念に準備をし、周到に計画していただいたため、私はこのことに心から感謝をします。次に私は記者がした質問に答えていきます。〕

上記の例はいずれも話し手が対象動作をこの発言の後もしくは近い将来行うことが確実であり、その動作を行うことを聞き手などの第三者に宣言している。例えば(24)では話し手が客人を招待する動作が“我想介绍您认识这位客人”で宣言しており、その宣言のすぐ後に“布洛克先生，诺布瓦侯爵”からわかるように実行に移している。また“愿意”が用いられた(26)では話し手が“但我愿意补充说”と宣言しており、その行動は“中美关系还应当也可以做到‘更好’”からわかるように後文で実行されている。

以上、宮崎(2006)が指摘する「願望」「抱負」「意向」が“愿意”と“想”にどのように表れるのか見てきた。まとめると“想”は「願望」「抱負」「意向」のすべてを表すことができるのに対して、“愿意”は「抱負」と「意向」を表すのみに留まり、「願望」を表すことはできない。これは前述した“愿意”と“想”の性質と関係する。“愿意”は話し手の意志選択を表す「選択意志」の特徴を持つ。「選択意志」というのは話し手が意志を選択することを表すため、話し手が意志の実行を決意していることは明白である。「願望」は前述したように話し手が願うのみであり、実行への決意まで至っていない。このような意味は“愿意”の「選択意志」とは相性が良くない。しかし“想”に至っては話し手の意志を未定のまま保留する「未定意志」の性質を持つため、「願望」を表すことができる。また話し手が意志実行を決意した「抱負」「意向」を“想”が表すことができることから、“想”は“愿意”よりも広く意志を表現できることがわかる。以上、説明してき

た“愿意”と「願望」の性質が1章で挙げた“愿意”と程度副詞“太”、“好”が共起できない原因となる。次に程度副詞“太”、“好”の性質とその後続成分について詳しく見ていきたい。

3. 副詞の性質

本章では“好”、“太”の性質とこれらに後続する動詞を分析し、その動詞の性質と前章で明らかにした“想”、“愿意”の性質を照らし合わせていきたい。

3.1 程度副詞“好”

副詞“好”の持つ意味について呂叔湘（1999）は以下のように分類している。

1. 强调多或久。用在数量词、时间词或形容词‘多、久’前。数词限于‘一，几’。（呂叔湘 1999）
多さや長さを強調する。数量詞、時間詞もしくは形容詞の“多”“久”の前に用いる。数詞は“一”“几”に限られる。
2. 表示程度深。多含感叹语气。（呂叔湘 1999）
程度の深さを表す。多くは感嘆の語気を含む。

本稿で扱う“好”は2の意味である。李晋霞(2005)は程度副詞“好”は“好人”、“好事情”などの形容詞の“好”から文法化を経て派生したと説明している。そして形容詞の“好”は“好人”のように話し手が人や物の属性に対して評価を下していることから主観性を持つ表現であるとしていて、その主観性は文法化を経て派生した程度副詞の“好”にも存在すると

説明している。

(28) 好漂亮! (李晋霞 2005)

[とてもきれい!]

上記の例の“好”は“漂亮”の程度の高さに対する肯定的な評価を強調しており、主観的な感情が顕著に表れている。このような“好”の性質は程度の高さを表すという点で程度副詞“很”と類似した性質を持つが、“很”には話し手の主観的な評価を強調する意味はない。このような性質を持つ“好”に後続する動詞はどのようなものであるか以下見ていきたい。“好”に後続する動詞を探るにあたって張谊生(2004)が挙げた程度副詞の修飾を受けることできる“心理動詞”“非心理動詞”¹⁾の144の動詞を対象にコーパス、CCL語料庫において見られるこれらの動詞と“好”の共起例を探した。右の数字はその動詞と“好”が共起していた例文の件数である。

心理動詞

想 136, 喜欢 57, 伤心 34, 感动 27, 羡慕 24, 恨 23, 后悔 23, 熟悉 19, 担心 14, 想念 13, 讨厌 9, 生气 7, 佩服 6, 心疼 6, 渴望 5, 同情 4, 着急 4, 欣赏 3, 抱怨 3, 体贴 3, 埋怨 2, 注意 1, 尊敬 1, 关心 1, 小心 1, 感慨 1, 敬重 1, 放松 1

非心理動詞

流行 3, 失态 3, 需要 3, 亲近 2, 夸大 2, 便于 2, 乐于 1, 巴结 1, 符号 1, 讲究 1, 浪费 1, 突出 1, 失败 1

1) 張谊生(2004)が挙げる“心理動詞”、“非心理動詞”以外の動詞は程度副詞と共起することが難しいため、今回の分析では扱わない。

上記の動詞のうち件数の多いものは“心理动词”である。张谊生（2004）は“心理动词”を話し手の感情を表す“心理感受动词”と話し手の物事に対する態度を表す“心理态度动词”に分けており、上記で多くの共起例が見つかった“想”、“喜欢”、“伤心”、“感动”、“羡慕”、“恨”、“后悔”は张谊生（2004）が定める“心理感受动词”にあたる。以上から“好”に後続する動詞は“心理动词”、特に“心理感受动词”が多いことがわかる。また同じ程度副詞である“很”は次の例からわかるように“心理感受动词”以外の動詞を後続成分にとることができる。

(29) a. 她很了解我。

b. 她好了解我。

上記の“了解”は张谊生（2004）が分類する“心理动词”に属するものである。“很”の修飾を受けることができ、言語資料において“很”+“了解”の例は550例見つかった。“好”も“了解”と共起可能であるが、“好”+“了解”は2例しか見つけることはできなかった。“好”と“很”は同じく後続する成分の程度の高さを表す程度副詞であるが、“好”は専ら“心理感受动词”を後続成分にとり、“很”とは異なることがわかる。次に“太”の性質とその後続成分について見ていきたい。

3.2 程度副詞“太”

次に程度副詞“太”について見ていきたい。吕叔湘（1999）は“太”の持つ意味を以下の2つに分類している。

1. 表示程度过头。多用于不如意的事情。句末常带了。（吕叔湘 1999）
程度が度をを超えていることを表す。多くは話し手にとって不本意な事柄に用いる。文末にはよく“了”を伴う。

2. 表示程度高。（呂叔湘 1999）

程度が高いことを表す。

また张亚军（2002）は“太”について“过”「過ぎる」、「过于」「程度が過ぎる」に近い“过量”「度を超す」の意味を持つ場合と単純に程度の高さを表す場合に分けられると指摘し、“过量”の意味を持つ場合は話し手の不満を表すことがあると指摘した。つまり“太”は程度の高さを表すとともにその高さが甚だしく、そのことに対して話し手の不満を表すということである。このような意味を持つ“太”に後続する動詞はどのようなものであるか以下見ていきたい。以下は张谊生（2004）が挙げた程度副詞と共起できる 144 種類の動詞の中の“太”との共起が見られた動詞である。

心理动词

想 184, 熟悉 153、了解 135、喜欢 131、相信 65、明白 37、伤心 36、讨厌 29、重视 27、着急 27、关心 26、感动 24、担心 23、注意 18、渴望 18、计较 13、操心 12、轻视 11、生气 9、恨 7、想念 7、忽视 7、佩服 6、迁就 6、同情 5、信任 5、放松 4、尊重 3、羡慕 3、抱怨 2、心疼 2、谦让 2、痛恨 2、负责 2 敬重 2、乐意 2、怀疑 1、爱好 1、后悔 1、体贴 1、期盼 1、牵挂 1、顺从 1、体谅 1、爱戴 1、爱慕 1、宠爱 1、感慨 1、厌烦 1、坚持 1

非心理动词

像 187, 需要 166, 缺乏 102, 浪费 88, 接近 50, 费 47, 靠近 36, 失礼 21, 吸引 20, 缺 19, 突出 17, 抬举 13, 讲究 13, 唐突 12, 强调 12, 善于 10, 失败 8, 明确 8, 亲近 9, 贴近 5, 夸大 8, 深入 12, 取巧 1, 乐于 1, 富于 7, 放纵 6, 适合 6, 照顾 6, 努力 6

符合 4, 影响 4, 优待 3, 夸奖 3, 切合 2, 欢迎 2, 勇于 1, 敢于 1, 巴

结 1, 争气 1, 帮忙 1, 合作 1, 失态 1, 省力 1

上記からわかるように“太”に後続する動詞は“心理动词”が多く、“想”“喜欢”のような“好”に多く後続する“心理感受动词”と重なるものも多いが、“需要”のような“非心理动词”も多く含まれる。

4. “心理感受动词”と「願望」「抱負」「意向」

本章では前章で明らかにした“好”と“太”に多く後続する“心理感受动词”と2章で明らかにした“想”と“愿意”の「願望」「抱負」「意向」の関係を考察していきたい。前章では副詞“好”はそれ自身が話し手の主観を表す表現であり、また後続成分に主体の感情を表す“心理感受动词”を多くとるということがわかった。また“太”に関しては後続成分が必ずしも“心理感受动词”に限るわけではないが、多くの後続成分が“心理感受动词”であった。2章では“愿意”は主体が対象動作実行へ決意を所持している「抱負」、「意向」の意味として機能することは可能であるが、主体が動作実行へ決意が未だなされていない「願望」の意味は持たないと指摘した。“愿意”は副詞“好”と“太”と共起することが難しい。“愿意”の持つ性質と“好”と“太”に多く後続する“心理感受动词”との関係を以下、詳しく見ていく。まず“心理感受动词”の性質について見ていきたい。

(30) 宋洋才瞥见那女子一眼，便不由得喜欢上她。《和尚老公》

〔宋洋はたった一目その女の子を見ただけで、彼女を自然と好きになった。〕

(31) 想到这种日子也许以后这一辈子都不会有了，蓝棠不由得伤心不止。《海棠花》

〔こんな日はもう恐らくこの人生にはないと思うと藍棠は思わず悲しみが絶えなかった。〕

(32) 你这幸运的小子，就凭一招死缠烂打，竟把小白雁追上手，真令人羡慕。《边荒传说》

〔この幸運な子は自分の我儘を貫き通して、ハクガンを手に入れた。本当に羨ましい。〕

(33) 这个秋天，抽烟让我温暖，也让我感动，原来我那样讨厌抽烟。《无法不爱你》

〔この秋、喫煙は私を温かくさせ、また感動させた。元々は私のはあんなにも喫煙を嫌っていたのに。〕

(34) ?? 我不由得了解。

(35) ?? 让我需要你的帮助。

上記 (30) ~ (33) はすべて“心理感受动词”が用いられ、尚且つ“不由得”「思わず」や“令人”「~させられる」のような話し手が動作発生をコントロールできない状態を表す語が用いられている。上記の例はいずれも問題なく成立する。しかし (34) (35) をご覧いただきたい。これらの例には“了解”、“需要”のような副詞“好”とはあまり共起例が多くなかった動詞が用いられている。これらの動詞は上記の例からわかるように“不由得”や“让我”「私にさせる」のような話し手の非コントロール

性を表す文脈に用いると非常に不自然である。²⁾ 以上をまとめると副詞“好”と“太”と多く共起する“心理感受动词”は話し手が事態の発生のコントロールが難しい文脈に用いても問題ないということがわかる。この特性は“愿意”の性質と相反する部分がある。“愿意”は主体が意志を選択することを表す「選択意志」の性質を持つことから、主体が意志の実行を決意していると言える。そのため前述したように「願望」のような主体が意志実行の決意を未だ行っていない意味を表すことができない。また意志の実行の決意を有するという事は主体が動作の発生についてコントロールが可能であることも意味する。つまり“愿意”は副詞“好”と“太”に多く後続する“心理感受动词”のような非コントロール性を持った表現とは異なった性質を持つということである。以下の例を参照されたい。

(36) * 可是看了内容之后, 仍然感谢你对我的信任, 不由得愿意写几句话给你。

(37) * 好好吃哦! 应该不只加了鸡精粉, 还有迷药, 吃了愿意人想飞。

上記の例はいずれも話し手が事態の発生をコントロールできない状態にある。

このような文脈に“愿意”を用いることはできない。しかし以下の例から“想”は問題なく用いることができるのがわかる。

2) 副詞“太”は前述したように“了解”と多く共起する。副詞“太”に関しては“愿意”とも数例ではあるが、共起例が見られることから、その後続成分は非コントロール性の“心理感受动词”と“了解”のようなコントロール性を持つ“心理动词”の両方が可能であると考えられる。

- (38) 可是看了内容之后，仍然感谢你对我的信任，不由得想写几句话给你。(北大)

[でも内容を見た後で依然としてあなたが私に信頼を置いてくれていることに感謝したく、思わずあなたに手紙を書きたくなりました。]

- (39) 好好吃哦！应该不只加了鸡精粉，还有迷药，吃了令人想飞。(北大)

[しっかり食べてください！鸡精粉だけではなく、他にも秘密の薬を入れました。食べたなら飛びたくなるかも。]

上記からわかるように“想”は話し手が実態発生をコントロールできない文脈に用いることができる。これは言い換えれば“想”は副詞“好”と“太”に後続する成分に類似した性質を持つということである。

以上からわかるように副詞“好”と“太”に多く後続する動詞、“心理感受动词”の性質は“愿意”とは相いれない。そのため冒頭で挙げた副詞“好”、“太”と“愿意”との共起状況が生じる。一方、同じ意志表現“想”は“心理感受动词”と共通した性質を持つため、副詞“好”、“太”とも問題なく共起することができる。

5. まとめ

以上、意志表現“愿意”と“想”に見られる程度副詞との共起状況の差異から“愿意”と“想”が表す意志表現の性質の違いを明らかにし、副詞“好”と“太”に後続する成分との比較を行い、“愿意”が“好”と“太”と多くの場面で共起できない原因について探ってきた。本章では“愿意”と“想”が助動詞として機能する例を扱ってきたが、両者は以下のように

動詞としての用法も存在する。

- (40) 我愿意我的友人脸相佳美,但愿意她灵魂更美,远远超过她的外表。

（北大）

〔私は友人の顔立ちが美しいことを望むけれどもまた彼女の人格ももっと美しく、それが外見よりも遠く優っていることを望みます。〕

- (41) 这是一件非常沉闷的事情,很可怕。我想任何一个艺术家或者小说家都会明白这一点。（北大）

〔これは非常に気が重いことであり、とても怖い。私は如何なる芸術家や小説家がみんなこのことを理解していると思っている。〕

上記からわかるように動詞として機能した場合、両者の差異は明白であり、やはり本論で指摘した助動詞としての差異と同じく、その差異は“愿意”は話し手が自ら意志を選択したことを表す意味を持ち、“想”は話し手が実行への決意がまだなされていなく、個人的に見解を有している意味を持つ。上記のような動詞としての用法においては両者の違いは明確であるが、本論で扱ってきた助動詞としての機能の差異は非中国語母語話者にとって理解しにくく、両者とも「～タイ」という意味で理解している可能性が高い。今後、両者の性質の違いを踏まえて、多くの使用例を考察し、どのような時に“愿意”が適切なのか、また“想”が適切なのかを詳しく分析し、非中国語母語話者の意志表現の理解に努めていきたい。

参考文献

- 石井友美 (2016) 「意志表現としての“想”と“愿意”」『中国語教育』第14号
p57-p78
- 鲁晓琨 (1999) <现代汉语意愿助动词的意义对比> 第六届国际汉语教学讨论会论文选 528-543
- 吕叔湘 (1999) 《现代汉语八百词 增订版》商务印书馆
- 益岡隆志 (2002) 「定表現と非定表現と不定表現」国語論究 10 現代日本語の文法研究 明治書院 68-92
- 马庆株 (2002) 《著名中年语言学家自选集·马庆株卷》安徽教育出版社
- 宫崎和人 (2006) 『まちのぞみ文について 「シタイ」と「シヨウ」』日本語文法の新地平 2 文論編 益岡隆志, 野田尚史, 森山卓郎編 くろしお出版 41-61
- 李晋霞 (2005) <好的语法化和主观性> 世界汉语教学 第1期 44-49
- 史彤岚 (2015) <关于“肯”的语义语用特点及与“愿意”的区别>
中国語教育 第13号 131-146
- 孫樹喬 (2014) 「意志表現をめぐる日中対照研究」神戸市外国語大学博士論文
- 张亚军 (2002) 《副词与限定描状功能》安徽教育出版社
- 张谊生 (2004) 《现代汉语副词探索》学林出版社

引用文献

- ・北大：北京大学中国语言学研究中心现代汉语语料库检索系统
(http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/)
 - ・亦凡图书馆
(<http://www.shuku.net/novels/cnovel.html>) より
- 《和尚老公》《海棠花》《边荒传说》《无法不爱你》

特に明記されていないものは筆者作例。